

(様式1)

令和5・6・7年度「京都府学力・学習状況調査～学びのパスポート～」  
学校改善プラン(1年次)【小学校】

【学校名等】

学校名	綾部市立中筋小学校							校長名	村上 稔
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援	児童数	232名
学級数	2	2	1	1	2	1	2		
事業担当教員名	山村 知矢								
① 中学校区で目指す子ども像	<p>ブロック教育目標：自立と貢献～夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 子どもの育成～ ブロック目指す子ども像：夢をもち 仲間とともに 未来を切り拓く 綾中ブロックの子 夢をもち (将来を見据え、主体的に学び表現する子) 【展望する力】 仲間とともに (豊かな心をもち、自他ともに大切にできる子) 【つながる力】 未来を切り拓く (心身ともに健康で、実践力と行動力のある子) 【挑戦する力】 綾中ブロックの子 (誇りと郷土愛をもち、地域とかかわる子) 【貢献する力】</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 認知能力、非認知能力、メタ認知をバランスよく伸ばしている。</li><li>・ 自身の学習を自分で準備、実行、完了することのできる力と意思をもち、自律的な学びを実現することができる。</li><li>・ 課題解決的に学び、課題に対して意欲をもって取り組むことができる。</li><li>・ 自分の弱みを見せて、本音で語り合うことができる。</li><li>・ 下級生のモデルとして自身の姿をふり返り、上級生をモデルとしてより良い生き方を考え、行動できる。</li><li>・ 自分たちの学びや行動が身近な人や社会を変えることができるという自己有用感に裏付けられた自尊感情が育っている。</li><li>・ 自己の理解を深め、夢や希望をもって、将来の生き方や生活を考え、自ら学習に向かうことができる。</li></ul>								
② 目指す子ども像	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 自己理解に基づいて、現在の自分にとって最適な学習内容・方法の選択ができる。</li><li>・ 自己の興味・関心等に応じて、学習目標や計画を立てたり、学習を進めたりすることができる。</li><li>・ 目標達成に向けて、粘り強く努力したり効果的な学習となるよう工夫したりできる。</li><li>・ わからないことをわからないと言える学級の雰囲気のもと、友達と考えを共有して協働的に解決できる。</li><li>・ 学ぶことの楽しさや大切さを感じることができる。</li></ul>								

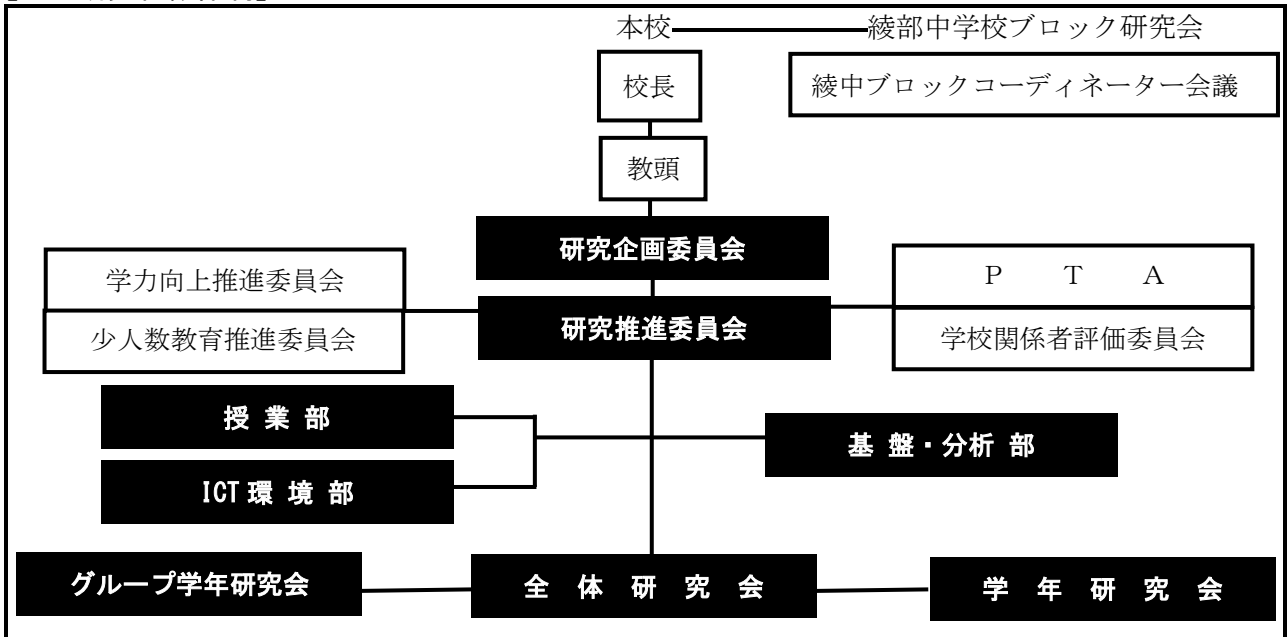
<p>③ 目指す子ども像に対する現状と課題</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習活動や思考の過程などを繰り返す経験が少なく、自己理解が不十分である。</li> <li>・ 現在の自分にとって最適な学習内容・方法の選択をする場面が少ない。</li> <li>・ 画一的な学習活動が多く、児童が自己の興味・関心等に応じて、学習目標や計画を立てたり、学習を進めたりする経験に乏しい。</li> <li>・ 粘り強く努力した例や効果的な学習となるよう工夫した例に出合う経験が少なく、児童にとってのモデルが不足している。</li> <li>・ わからないことを素直にわからないと言える児童が少なく、間違えることを恥ずかしいことだと捉えている。</li> <li>・ 学ぶことの楽しさや学ぶことの大切さへの理解を児童に任せており、学習活動の中に位置付けて授業を構成していない。</li> </ul>
<p>④ 目指す子ども像に達するための仮説</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習活動や思考の過程などを繰り返す活動を丁寧に行うことで、自己理解が深まり、自分にとって最適な学習内容・方法を選択する力の高まりにつながるのではないかと。</li> <li>・ ICTを活用し、学習の多様性を認め、児童が自分の目標や進度に合った形で学んだり、自分の興味や関心等に応じて、学習を進めたりすることで、自律的な学習者が育つのではないだろうか。</li> <li>・ 最適なモデルに触れ、粘り強く努力する経験や効果的な学習となるよう工夫する経験を積むことで、目標達成に向けて、自らの学びを調整して学ぶ児童が育つのではないだろうか。</li> <li>・ わからないことを共有して解決する学習活動を展開することで、友達と協働的に問題を解決できるようになるのではないかと。</li> <li>・ 学ぶことの楽しさや学ぶことの大切さを学習活動の中に位置付けて授業を構成することで学ぶことの楽しさや大切さを感じることができるようではないかと。</li> </ul>

令和5年5月1日現在

【1 研究主題】

自己を理解し、自ら学ぶ児童の育成  
～ICTを活用した個別最適な学びの創造～

【2 研究組織体制】



### 【3 具体的な取組内容】

- ・ 授業研究会を実施し、個別最適な学びを意識した単元構成について検討し、その効果を検証する。
- ・ 児童の自主学習の様子を表彰したり、粘り強く努力したモデルや効果的な学習となるよう工夫したモデルを掲示したりする。
- ・ 外部講師の招致を行い、理論的な研修や研究の方向性について評価をしてもらう機会を作る。
- ・ 学びのパスポートを活用し、認知能力・非認知能力について分析し、研究の成果や課題を明確にする。
- ・ 校内研究授業の様子を掲示にして、他学年にも実践を波及させ、個別最適な学びの機運を高める。
- ・ タブレット端末やデジタル教材の活用技能の基礎的な能力を育成する。

### 【4 仮説及び成果を検証するための質問項目】

学年	質問番号	質問項目	概念	備考
4～6	30	自分の考えた道すじをほかの人の視点からも考えて、見つめ直すほうだ。	自己調整	
4～6	31	わからない問題にであったとき、調べたり、さらに深く考えたりしている。		
4～6	32	課題が終わったら、自分が学んだことを簡単にまとめている。		
4～6	33	目標を達成するためのよりよい方法をいつも考え、取り組み方を変えていっている。		

\* 5・6の分析の項目は削除しています。

### 【7 分析結果を踏まえた指導改善、個に応じた具体的な手立て】

<p>個に応じた具体的な指導・支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ふり返りを書く際、学習活動や思考の過程などをふり返る活動を丁寧に行う。その際、モデルを示し、目指すべき姿を共有することで、自身を振り返る力を育てていく。(4年)</li> <li>・ 自分のできていない点に目を向け、その点を友達に聞いたり教師に聞きにきたりできるようにする。(4年)</li> <li>・ 協働学習の場面で、モデルとなる児童と一緒にグループを組むことで、学習方法を参考にさせる。(5年)</li> <li>・ 自主学習に取り組ませる際、より良いモデルを示したり、担任との相談で適切な学習内容を選択できるようにする。(6年)</li> <li>・</li> </ul>
<p>集団としての具体的な指導・支援方法</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 昨年度までのICT活用の研究の成果を踏まえ、引き続き、効果的な場面でICT機器を活用していく。特に今年度は「ICTを自身の判断で活用する」ことに重点を置く。(全体)</li> <li>・ 単元のゴールの姿を児童と共通確認し、見通しを持ちながら学習を進める。(全体)</li> <li>・ ふり返りを書く視点(学習内容だけでなく学習方法も)を指導し、単元を通した振り返りを蓄積する。(5年)</li> <li>・ 学びの方法を複数示し、児童に選ばせる余地を与える。(6年)</li> </ul>

## 【8 仮説の修正】

(従前)

【学習活動や思考の過程などを繰り返す活動を丁寧に行うことで、自己理解が深まり、自分にとって最適な学習内容・方法を選択する力の高まりにつながるのではないか。】

(修正後)

【学習活動を繰り返す活動や単元の見通しをもつ活動を行うことで、自己理解の深まりや最適な学習内容・方法の選択能力の高まりにつながるのではないか。】

→校内の研究を通して、振り返りだけでなく、単元の見通しを持つことも同様に重要であることが分かってきたので、それを追加して修正とする。自己理解を深める必要性については、分析結果などから教師の見取りと児童の回答にずれが生じていたり、自己調整という概念そのものへの認識の甘さがあつたりするので、引き続き、研究仮説として扱っていく。

(従前)

【学ぶことの楽しさや学ぶことの大切さを学習活動の中に位置付けて授業を構成することで学ぶことの楽しさや大切さを感じることができるのではないか。】

(修正後)

削除

→楽しさ・大切さの実感については教育活動の結果の検証項目として扱い、仮説からは削除する。来年度からは児童へのアンケート項目として取り上げる。

## 【9 具体的な取組内容の修正】

集団としての具体的な指導・支援方法

(従前)

【単元のゴールの姿を児童と共通確認し、見通しを持ちながら学習を進める。(全体)】

(修正後)

【単元構想シートを用いて、単元のゴールの姿や単元の見通しを児童と共通確認し、見通しを持ちながら学習を進める。(全体)】

→仮説の修正に伴い、ゴールだけでなく、その学習の道筋についても見通しを持てるような学習活動に取り入れる。また、具体的な方法として、今年後の研究授業の中で現れた単元構想シートを学校全体の基本的テンプレートとして活用することとする。

## 【10 児童の変容（普段の様子から）】

- ・ 今年度は児童アンケートなどによる検証を行っていないので、数値的な変容については不明な点もあるが、単元のゴールの姿を児童と共通確認し、見通しを持ちながら学習を進めたことにより、今日、何を学ぶのかを理解し、「今日、何をしますか？」という児童が減少したように感じる。また、前時でやり切れなかった学習内容を本時の学習のために休み時間や家庭で行うなど、学習を受け身で捉えるだけでなく、自己調整能力を生かしながら授業に臨む姿が見られる。
- ・ 学習のモデルを示す取組を「自主学習大賞」という形で表彰したりノートを掲示したりした。自主学習大賞の児童への認知度が高まり、取れなかったことに悔しさを感じたり、今後の自主学習をがんばろうと意欲を向上させたりしている様子が見られた。一方で、自主学習で何に取り組んだらいいかわからないという児童も一定数存在する。他の宿題との割合や頻度を工夫し、低学力層の児童でも取り組みたくなるような内容面の啓発や指導が必要である。
- ・ 学習活動や思考の過程などをふり返る活動を丁寧に行いたい、学習内容が多い場合や難しい場合は学習を振り返る活動に時間がとれないことも実際にはあった。どのような学習では振り返り活動の効果が出やすいのか、どのような頻度が良いのか、その振り返りをどう生かすのかなど、書くことに終わるのではなく、次の学習に活かしていく視点で研究を進めていく必要がある。
- ・ 学習方法を複数示し、児童が選ぶ余地を設けるなど、従来の画一的な授業形態ばかりでなく、児童一人一人にとって最適な学びの在り方をサポートしていくなど、今までの教師の指導観が少しずつ変容している部分がある。

## 【11 2年次の研究構想】

### R6【研究主題】（案）

自らの学びを最適化する児童の育成 ～自己調整能力の活用と育成～

上記の研究主題を設定し、研究仮説は以下のように整理する。

#### 【研究仮説1】

学習活動や思考の過程などをふり返る活動を丁寧に行うことで、自己理解が深まり、自分にとって最適な学習内容・方法を選択する力の高まりにつながるのではないかと。

#### 【研究仮説2】

ICTを活用し、学習の多様性を認め、児童が自分の目標や進度に合った形で学んだり、自分の興味や関心等に応じて学んだりするなど、自らの学びを調整する学習体験により、自律的な学習者が育つのではないだろうか。

#### 【研究仮説3】

最適なモデルに触れ、粘り強く努力する経験や効果的な学習となるよう工夫する経験を積んだり、わからないことを共有して解決する学習活動を展開したりすることで、目標達成に向けて、友達と協働的に問題を解決できる児童が育つのではないだろうか。